

資料1

府中市次世代育成支援に関する市民意向調査＜就学前児童調査＞

検討しているクロス集計の集計軸

- ・ 年齢別
- ・ 年齢別（各歳）
- ・ 家族類型別
- ・ 家族類型・支援別
- ・ 地区別

I クロス集計結果

1. 家族類型および家族類型・支援の分布

家族類型別の分布を見ると、「専業主婦（夫）家庭」が最も多く、次いで「フルタイム共働き」、「フルタイム・パートタイム共働き」の順で続いている。また、家族類型・支援別の分布を見ると、「専業主婦（夫）家庭・支援少」が最も多く、次いで「フルタイム・支援少」、「専業主婦（夫）家庭・支援多」の順で続いている。

家族類型	割合 (%)
ひとり親家庭	3.4
フルタイム共働き	21.8
フルタイム・パートタイム共働き	14.2
専業主婦(夫)家庭	55.3
その他	2.1
無回答	3.2

家族類型・支援別	割合 (%)
ひとり親家庭	3.4
フルタイム・支援多	2.9
フルタイム・支援少	13.4
フルタイム・支援無	4.4
フルタイム・パートタイム・支援多	8.7
フルタイム・パートタイム・支援少	2.0
フルタイム・パートタイム・支援無	9.6
専業主婦(夫)家庭・支援多	2.9
専業主婦(夫)家庭・支援少	34.8
専業主婦(夫)家庭・支援無	8.7
無回答	9.2

- 1 -

2. 子どもをあずかってもらえる人について（問1）

子どもをあずかってもらえるかどうかについて家族類型別に見ると、ひとり親家庭は他の家庭に比べて、「緊急時、用事の際には祖父母の親族にあずかってもらえる」、「緊急時などの際には子どもをあずけられる友人・知人がいる」が少なく、逆に「いずれもない」が多い。

(%)

		日常的に祖父母などの	緊急時、用事の際には	日常的に子どもをあずか	緊急時などの際には	いずれもない	無回答
全	体 (N=2,022)	14.2	55.5	3.7	19.5	17.5	4.8
家族類型別	ひとり親家庭 (n= 68)	16.2	47.1	7.4	4.4	23.5	10.3
	フルタイム共働き (n= 441)	12.5	59.2	1.4	8.4	20.0	5.4
	フルタイム・パートタイム共働き (n= 288)	17.0	58.7	4.5	19.1	14.2	4.5
	専業主婦(夫)家庭 (n=1,118)	14.7	55.7	3.9	24.6	15.7	3.8
	その他 (n= 42)	16.7	42.9	11.9	21.4	19.0	14.3

3. 祖父母にあずかってもらっている状況（問1-1）

祖父母にあずかってもらっている状況について家族類型別に見ると、ひとり親家庭とフルタイム共働きは、「祖父母の身体的負担が大きく心配である」、「祖父母の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」、「自分たちの子どものことで負担をかけていることが心苦しい」が多く、逆に「祖父母が孫をあずかることについては、特に問題はない」が少なくなっている。

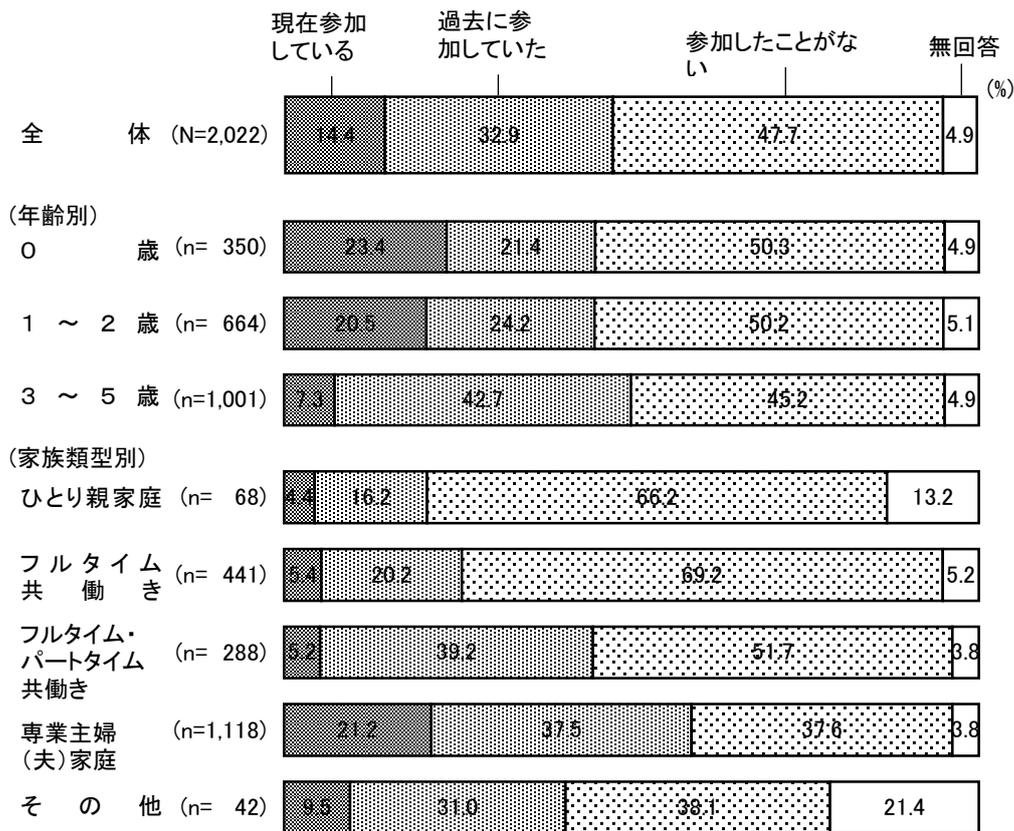
(%)

		祖父母には孫をあずかるに	祖父母の身体的負担が	祖父母の時間的制約や	祖父母の精神的負担が	自分たちの子どもの負担が大きい	その他	無回答
全	体 (n=1,356)	58.9	24.2	20.3	18.4	7.0	0.7	
家族類型別	ひとり親家庭 (n= 41)	39.0	31.7	39.0	29.3	4.9	4.9	
	フルタイム共働き (n= 309)	39.2	39.2	31.7	28.2	9.4	0.3	
	フルタイム・パートタイム共働き (n= 207)	56.5	25.6	24.6	23.2	4.8	0.0	
	専業主婦(夫)家庭 (n= 754)	69.2	17.2	13.1	12.7	6.6	0.8	
	その他 (n= 23)	65.2	8.7	26.1	8.7	4.3	0.0	

4. 子育てサークルの参加について（問3-④）

子育てサークルへの参加状況について、子どもの年齢別に見ると、3～5歳については現在参加している割合が少ない一方で、過去に参加していた割合が多いことから、子育てサークルへの参加は子どもが3才未満のときに多くなるのがわかる。

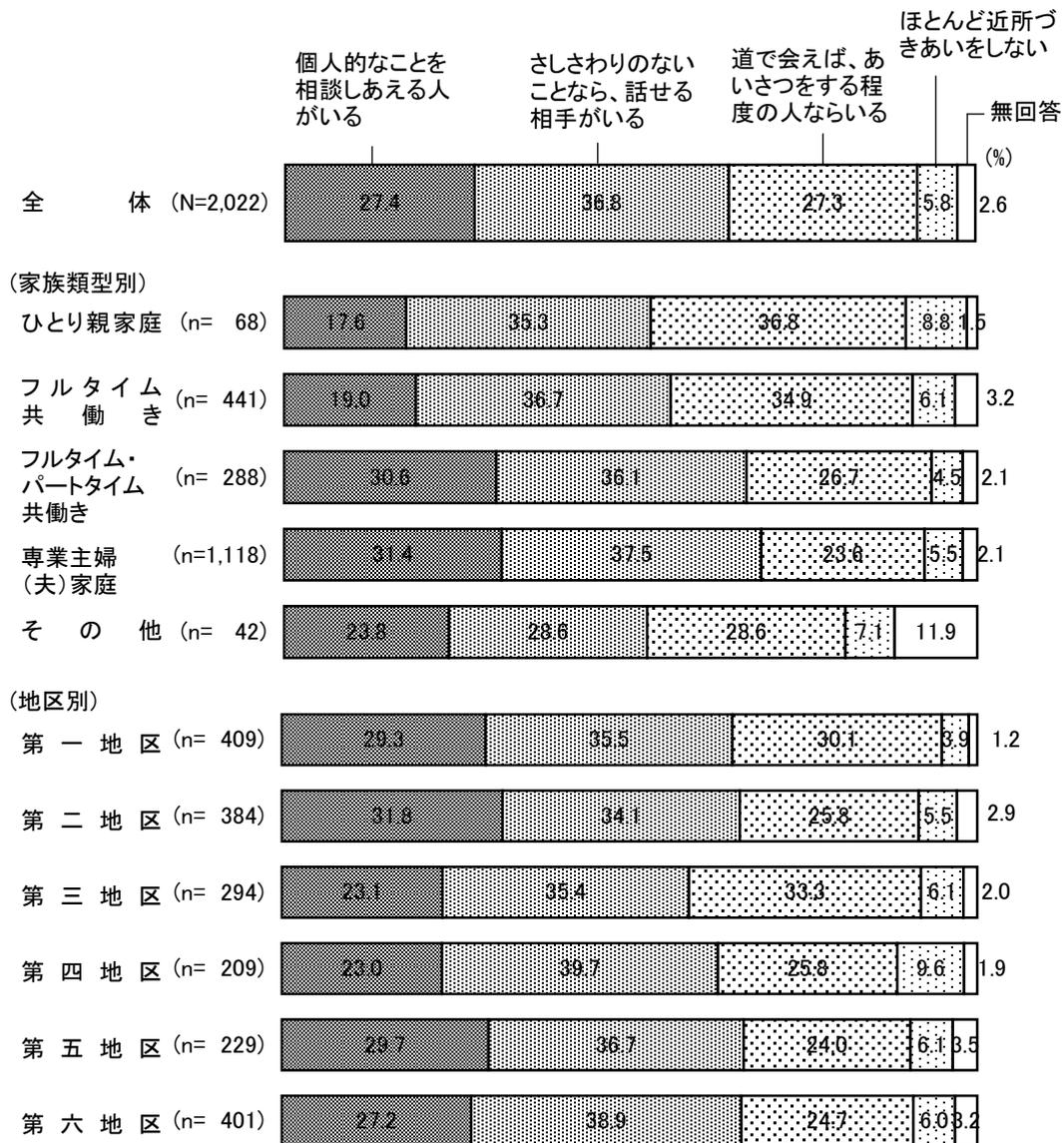
家族類型別にみると、専業主婦（夫）家庭では、「現在参加している」が2割を超え多くなっている。その一方で、ひとり親家庭やフルタイム共働き家庭では「参加したことがない」が6割を超えており、子育てサークルへの参加度合いが低いことがわかる。



5. 近所づきあいの程度（問 35）

近所づきあいの程度について、家族類型別にみると、フルタイム・パートタイム共働き、専業主婦（夫）家庭では、「個人的なことを相談しあえる人がある」が3割を超え多くなっている。一方、ひとり親家庭、フルタイム共働きでは、「個人的なことを相談しあえる人がある」が2割以下となっている。

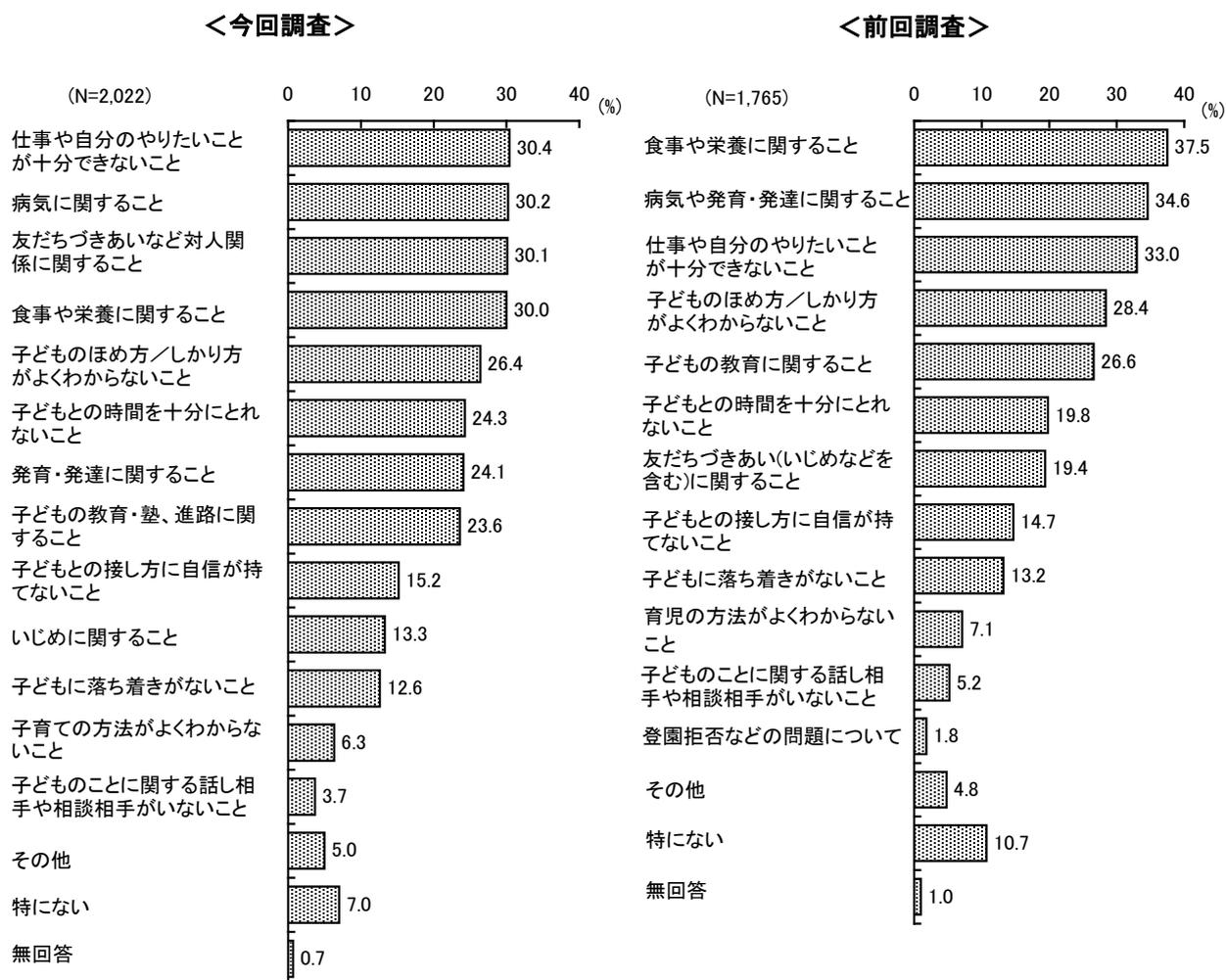
地区別にみると、第二地区では「個人的なことを相談しあえる人がある」が3割を超え多くなっている。



II 前回調査との比較

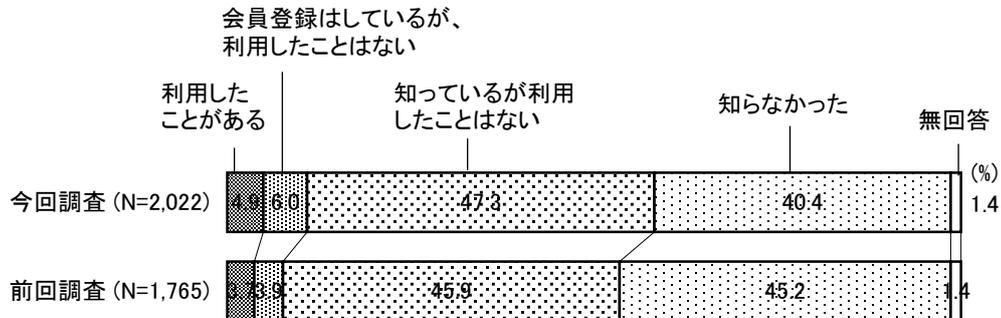
1. 子育ての中で日ごろ悩んでいること、気になること（問6）

子育ての中で日ごろ悩んでいること、気になることは、前回調査、今回調査ともに、「仕事や自分のやりたいことが十分できないこと」、「病気に関すること」、「食事や栄養に関すること」が上位となっている。今回調査では、「友だちづきあいなど友達関係に関すること」も3割を超え多くなっている。



2. ファミリーサポートセンターの認知、利用状況（問 27）

ファミリーサポートセンターの認知、利用状況は、今回調査では「利用したことがある（4.9%）」が前回調査（3.7%）に比べ 1.2 ポイント多くなっている。「会員登録はしているが、利用したことはない」、「知っているが利用したことはない」まで含めた認知度は、今回調査（58.2%）では前回調査（53.5%）に比べ 4.7 ポイント多くなっている。



3. 親子で集える場に期待する役割（問 32）

親子で集える場に期待する役割は、今回調査、前回調査ともに上位の傾向は変わらない。前回調査と今回調査で最も差がある項目は、「地域の人たちとのふれあい」であり、今回調査（19.0%）が前回調査（28.5%）に比べ、9.5 ポイント少なくなっている。

